



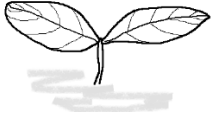
あきらめない

記事内容は執筆者個人の見解であり、すべての方への有効性は保証できません。

スクールソーシャルワーカーだより 60.4

期待されない＝自由

実存的な不登校のつづきの話



前号は、期待に応えることにつかされた末の実存的な不登校の話でした。今回はまとめです。

期待に応える事には慣れていないけれど、考える力は育っていない。期待と現実のすきまに落ちてしまい、考える事をやめ、人から期待される事も止めるためにゲームや動画の世界につながってしまった。そんな子に必要な事は何でしょう。

親として、先生として現状を認め、その子が好きな時に起き、いつでも何か食べられるようにしてあげる事でしょうか。

違うと思います。違うと分かっているけど、おとなはなすすべもなく、その子が張り巡らしているバリアにはねかえされてしまっているのではないのでしょうか。

☆

絶え間なくモニターから流れ出て来る光と音というバリアは、外からの期待に応えないだけでなく、自分の内側から湧き上がってくるものもブロックしてしまいます。

以前わたしは学校の図書室に、全身が映るよう大きな鏡を置くことを勧めました。とくに思春期の子は、自分が周りからどのように見られているか、とても気にしていますが、それを直接言われることを恐れてもいます。

自分の姿、自分がしている事を、鏡に映して見る機会があると、変わることが出来る子どもがいると思うからです。

★

不登校に陥っている子は、自分のありのままの姿を見たくないかも知れません。

起きてから寝るまで、同じジャージ。髪はぼさぼさ。そんな姿を見られたくなくて先生の家庭訪

問を拒んでいる子もいます。鏡の前に連れて行って、見なさいと言うわけではありません。トイレの入り口に置くとか、自然に目に入るところにおいて見てはどうでしょう。

☆☆

他に何が出来るでしょう。

子どものありのままを見つけ、認めてあげる事も知れません。まずは言葉を交わすことが必要です。

話題は学校の事ではありません。将来の事でもありません。それらは子どもが期待されている事を感じるからです。その日の天気や、夕飯は何を食べるとか、あなたとあまり関係が深くない人とあいさつ代わりに話をする時のような内容です。

無視されていないけれど、干渉もされないのだと確認出来たら、話し始めるかも知れません。

そういう具合に一切の期待を一旦やめて、自由にしてあげましょう。赤ちゃんの頃、日々の中でその成長を、ただ喜んだ時のように。

でも、甘やかしてはダメです。甘やかすとは、ルールがない事です。一緒に、どんなルールが必要か考えて欲しいのです。(おしまい)

